

全佛通信

五月号

芸・能・雑・話

西村輝成

発行所 財団法人 全日本仏教会 東京部中央区築地三ノ一(本願寺内) 電話(内)〇三二二 振替東京 三三〇〇 発行人 栗本俊道 編集者 別所弘因 印刷所 ルンビニ社

佐賀直子という歌手がいる。佐賀県出身で、高校を卒業して一昨年秋、キングレコードに入社したのだが、美貌で声もいい。佐賀君の家は、真宗のお寺である。然しそれが判ったのは後のことで、それは、彼女を芸能週刊誌のインタビューに連れていった時である。型通の記者との一問一答で、たまたま「お父様のお仕事は」と聞かれた時、彼女「あのお」と、もしも。私も「どうしたの、早く答えなさい」「でも、いやだわ」記者「なぜか」彼女、思い切ったように「これ、書かないで下さいね。父、お寺の住職ですの。」どうにも怪しからん話して、何が、いやらで、何が、書かないで、だ。そこで、「私も今、お寺の住職も務めているんだよ」と話すと、彼女目をまん丸くして驚ろいたが、それ以来大いに自信を得た様である。その佐賀君が吹込んで大ヒットしたのは韓国民謡の「アリアン」と「トラジ」だが、それにはこん

な話がある。インタビュがアツて以来、何彼と彼女をバック・アップしてきたが、このレコードもなんとかヒットさせたいと考えた。それには、在日韓国人にPRするに限ると思ひ、八方手を尽したが、その糸口をつけてくれたのが中外日報の阿部記者と、日本尼僧団理事長の小島賢道尼である。私の説明で、仏教界出身の歌手なら、是非力になりましよう、其の後渡りがついたのが、在日大韓民国婦人会中央総本部会長の呉基文女史である。この呉女史は大の仏教信者で、仏教を通じて日韓親善を願っている方である。この呉基文女史のお力で、在日韓国婦人会員五万人の支援を受けるに及び、レコードの売行が急上昇出演依頼も殺倒して、佐賀君大いに感激、一層の励みとなった次第である。真に仏縁であった。

先日、日比谷公会堂で積尊降誕花まつり大会が挙行された。第一部 式典。第二部 法楽、主催者は二部を例年と違え、華やかにしたいとの考えから、私が相談にあずかったのであるが、当初主催者の考えとしては、仏教界出身の有名歌手に好意的に出演してもらおうとの事だった。歌手としては植木等、森山加代子、三浦流一等々人気スターが挙げられている。私はこの案に反対した。なぜなら、これら所属会社、プロダクションを同一会場に集めてのショーに組むむずかしさと困難さ。それともう一つの理由は、これらの歌手は筆舌では尽し難い苦労と辛酸の末スターの座を獲得したのである。其の間我々仏教界は、彼等に何の力添をしたか。例えばテレビ放送に出れば皆に教えてダイヤルを合せるとか、舞台があれば動員して聞きに行くとか、人気投票するとか。と考えると、今更関係を持出してお車代での出演を依頼するに忍びないのである。この意見には主催者も全く同感で、急遽キング歌謡ショー一本にしほること決定した。そして氷雨降る四月八日日比谷公会堂に於て満員の大衆のもと、意義深く、且つキング豪華メンバーを集め、華やかに挙行されたのである。

私が駒大を出てキングに入って十年。数多くの芸能人と接してきたが、人気稼業にはバックアップ全国の仏教徒がバックアップすれば、三橋美智也の三人や五人忽ち出現させられること疑いなし。大いに御協力をお願い致す次第です。(曹洞宗 信松院住職、現キングレコード宣伝課勤務)

迫る！ 第十一回九州大会

一年一度の全仏教徒の結集に挙って参加致しましょう。

- 一、とき 昭和三十八年六月三日・四日(二日間)
- 一、ところ 福岡市電気ホール
- 一、日程 第一日 午前八時受付開始 第二日 午前八時正午迄
- 一、参加費 七〇〇円(全仏宛)
- 一、申込 四月末日(但し、定員一千五百名に達した時は随時切)
- 一、観光 六月四日午後一時出発



- 一、備考 参加費は全仏へ 観光、宿泊は、費用を添えて九州大会事務局(福岡市大濠町本願寺会館内)宛
- 一、宛 不明の点は全仏又は九州大会事務局へ御照会下さい。
- 一、財団法人 全日本仏教会

若葉の九州観光に参加しましょう

第十一回大会のポスター

中国仏教協会代表招く

常務理事会で決める

時局協議会分科会も構成

常務理事会は四月十一日午後二時廿五分から東京港区の曹洞宗宗務庁を会場として開催され、左の議案について熱心に協議した。

議 題

一、仏教東漸七十年記念会よりの申入れの件

本議案について栗本局長より説明があり、ついで東漸記念会の財産監理委員長阿部竜伝氏より、記念会も所期の目的を達成し、本年は七十一年に入るのこの際記念会を全仏に於て吸収合併してゆきたい。之が実行されれば記念会は解散する。それに伴ない付器其他の雑品は全仏に移管したい。敷金拾五万円はそのまま据置きにし、記念会に替って全仏が総て肩替りする事を神田寺と交渉している。詳細に亘って説明がなされた。終つて平林常務理事より、付器其他を全仏へ移管する条件は何か、と質問があり、阿部理事より、記念会の事業を継続して呉れる事を前提すると回答がなされ、その他二、三の質疑があったが、結局記念会よりの申入れについては全面的に受入れることに異議なく決定した。なお記念会の使用した神田寺の一室は全仏時局対策協議会の分室として当分の間使用することも承認決定された。

二、鑑真和上遺徳奉賛会よりの申入れの件

当局より二月廿二日付奉賛会よりの要望について、全仏より四月八日付にて左の三点を回答した旨報告し了承を得た。

①鑑真和上遺徳奉賛法要を全仏が主催する。

②右奉賛会の記念事業については、その度毎に協議の上で協賛可否を決める。

③五月四日の奉賛会の記念講演会を全仏は協賛する。以上

なお右奉賛会発会式に対しては全仏名にて祝辞を贈る。またこれに対する招待には夫々個人の資格で参加自由とするの二点も確認された。

三、其他

①中国仏教協会代表招請の件

石川局長より四月五日全仏事務局へ着いた中国仏教協会よりの電報を披露(中国仏教代表四名が五月上旬二週間訪日したい由)し、全仏としては鑑真和上奉賛会の方針としては全く別個なものとし、昭和卅二年九月中国側の招請に依じて中国を訪問した日本仏教代表団に対する答礼の意味をもち招くものである。招請期間は五月上旬に二週間、人員は四名とすること等を報告し了承を求めた。なお接待費用や旅行日程等については種々関係者と協議の上進めて行く旨報告し石川局長の右試案に対して全員異議なく賛成した。

②時局対策協議会分科会講成案について

当局より原案を提出、了承された。なお分科会の招集は会長が当ること、委員に必要な場合は、逐次補充すること、分科会は、決次補充等は一委員会の幹事に報告すること等が夫々承認決定された。

終つて署名委員に平林有高、岩野真雄両常務理事が指名され、金剛理事長の閉会の辞で三時五十分散会となった。当日の出席者は金剛秀一、平林有高、倉持秀峰、長岡慶信、岩野真雄、阿部竜伝、金子弁浄(代)、野村宗春の各常務理事、白山総長、栗本、狩野、石川各局長、別所、岩本、柳各部長、伊東、相馬、鎌田主事、福井書記(順不同敬称略)

なお時局協議会分科会構成は次のとおり。

第一分科会(組織、調査ほか)

会長 松本徳明、委員 訓朝信雄、平林有高、清水祐之、野村宗春、伊藤道機、吉田敏直、山本洋一、摩尼清之、三原信一、松浦勝道、壬生台庵、幹事 大塚正芳、森岡竜、門屋大寿、服部松齋、峰岸広哉、安居香山、泰本融、事務局 岩本昭典、相馬広濟、第二分科会(研修、出版ほか)

会長 阿部竜伝、委員 上野頼栄、末広愛邦、長岡慶信、岩野真雄、友松円諦、塩入亮忠、増永靈鳳、真溪義實、久保田正文、西義雄、村野宣忠、常光浩然、幹事 竹中信常、塩入亮忠、小沢照博、塩田隆雄、橋爪良恒、船口暉子、小瀬川亮晃、事務局 柳了地、鎌田良昭、第三分科会(墓地)

權益問題ほか

会長 白山亮一、委員 太田淳昭、清田叔坦、倉持秀峰、金子弁浄、井上恵行、大塚弘、川田聖見、來馬道断、吉本道観、三宅桂仙、幹事 蓮池東洋、下宮高俊、鈴木敏範、高山有進、福沢浄光、北之内真竜、吉井浄仙、事務局 別所弘因、伊東堅純、福井清俊

国際委員会開く

中国代表招請を審議

全仏緊急国際委員会(村野宣忠委員長)は、四月十七日午後三時半から東京築地レストラン・サボイにおいて開催され、左の諮問事項について熱心に協議した。

諮問事項

一、中国仏教協会代表招請に関する件

まづ石川国際局長が閉会の挨拶をなし、ついで村野委員長の要請によつて、本件の経過説明が石川局長より詳細に亘つてなされた。ついで当局案として同局長より、

①招請者は全仏、②中国代表は四名、③期間は一応五月四日から二週間などが提出され夫々確認を得た。なお接待予算については、訪中使節十六名の推薦母体を中心に措置を講じたい旨が述べられ異議なく了承された。次いで歓迎実行委員会等の構成について当局案を諮ったが、結論に至らず、全仏の機関に諮った上で決定する事に意見が一致した。なお終つて質疑応答に入り、各国際委員や、訪中使節から多数の意見や要望が寄せられたが、結論としては、政治を離れた考えをならぬ、純粹に仏教を通しての両国仏教徒の友好親善を増進する事云う、全仏の基本線を固持すること、中国代表の歓迎に万全をつくすこと等を申し合せ、午後四時五十分散会した。なお全仏としては近々、歓迎実行委員会を開催する予定。

当日出席者は、村野宣忠、菅原恵慶、桜井栄章、五島行宣、松浦竜一、の各委員、船口暉子、五十嵐賢隆、中濃教篤、高階唯仙(代)の元訪中使節団員、金剛理事長、栗本、狩野、石川局長、岩本柳部長、鎌田主事。

なお、四月二十五日午後一時から京都東本願寺において、関西側の運営委員会を開催することになっていて、全仏からも柳国際部長が出席することになった。

五月四・六日迄

「鑑真祭」増上寺で

浄土宗大本山の東京芝増上寺では、五月四日から六日まで増上寺会館において、鑑真祭を開催することになった。

五月四日は午前九時から四時に亘つて、一日授戒会が椎尾弁匠大僧正が戒師となつて営まれる。五月五日は午後一時より「鑑真和上と教育」と題する講演会が開かれ、五月六日には法要が行われ、贈授戒、回向が行われることになっている。

東大寺で盛大な法要

奈良東大寺では五月六日に鑑真和上の遺徳を奉賛して、一山あげて盛大なる記念法要を行うことになった。

時局対策協議会

第一回 幹事会開催

三部会に分ける事を決める

全仏時局対策協議会の第一回幹事会は四月二日午後二時から東京港区の曹洞宗々務庁を会場にして開催された。

会には栗本総主事(全仏総務局長)の開会挨拶にはじまり、出席各幹事の自己紹介がなされ直ちに議題に入った。

議題

一、事業項目の所掌について

時局協議会の目的事項の六項目を夫々二項目づつ分科会に分けることにし、名称を第一から第三分科会とすることを当局案として提出し幹事会の了承を得た。なお栗本総主事より各項目についての内容説明がなされ再確認を得た。

因みに第一、第二、第三分科会の各目的事項は次のとおり。

第一分科会(組織、調査)

○時局に対処する仏教諸問題の情報、資料の蒐集

○排他的宗教団体の非仏教運動の調査研究。(仏教々学を振興し、教化活動を積極化して)

○第二分科会(出版、研修)
○仏教理念を基調とする政治、経済、教育の総合的対策

○文書、出版、講演、研修等その他適切な方法による広報活動

○第三分科会(墓地、権益)
○寺院経済の紐帯である檀信徒

組織の再編成への調査研究
○寺院墓地、解放農地、宗教法人権益問題等の政治的解決策
なおここで金剛委員長(理事長)より挨拶がなされ、一層の協力方が要請された。終って質疑応答に移り、各幹事より活潑な意見や要望事項が述べられ、限られた期間に最大の力を結集して対新興宗教(排他的宗教団体)対策を中心に対処してゆくことを申し合せ、栗本徳明、阿部竜伝両副委員長より本来の仏教の姿を打ち出すべく努力して行きたいとの挨拶がなされ

白山亮一副委員長の閉会の辞で、午後四時四十五分に散会となった。なお各分科会に配属される幹事は、それぞれ其の希望に従って配置が決められ、各副委員長が各分科会へ、また時局協議会の委員の中から常任委員を夫々各分科会へ配置されることが了承され、これらは追って正式機関に諮った上で決定される事になった。

当日出席者は

橋爪良恒、杉谷義周、鈴木敏範、稲沢浄光、北之内真竜、吉井淨仙、安居香山、小沢照禪、別所弘因、柳了堅、門屋大寿、船口暉子、蓮池東洋の各幹事、栗本徳明、阿部竜伝、白山亮一各副委員長、金剛秀一委員長、栗本俊道総主事、石川狩野両委員、伊東、相馬、鎌田、福井(順序不同敬称略)

時局対 各分科会 開催

全仏時局協議会幹事会の第二分科会(会長阿部竜伝氏)では、四月二十四日午後一時から、東京千代田区神田の神田寺内仏教文化センターにおいて会議を開き、左の案件について協議した。

一、国内文化会議開催に関する件
当日は第二分科会常任委員をはじめ各幹事が出席した。

ついで第一分科会(会長栗本徳明氏)は、四月二十七日午前十時から東京芝高校記念室において開催された。

なお第一回第三分科会では、四月十八日午後一時より神田寺で、第二回の会議は二十五日に同所で夫々開催された。(詳細は次号掲載)

桜の花を送る

ハワイ仏教徒の花まつり

ハワイ仏教徒連盟(代表中島真教師)では、四月七日午前中にホノルル市ワイキキのカピオラニ公園において、盛大なる「釈尊降誕花まつり」式典を開催し、約五千名の各宗派仏教徒が集会した。これに先立ち同連盟ではホノルルの日本航空支店に対し、日本から桜の花を送るよう依頼、同支店では早速これに応じて東京本社宛電文によって依頼越した。日航側では直ちに桜の枝十数本を用意し、日航ホステスに托して四月六日午前十時羽田発の日航機に積みこみ、当日ホノルルへとどけたものである。

なお全仏ではこの機に際して、

大谷会長名によるメッセーヂをハワイ仏教徒連盟あてに送った。メッセーヂと桜の花は共に当日の日航ホステスに寄託した。

埼玉青少年協議会結成さる

会長に倉持秀峰師就任

全国青少年教化協議会埼玉県支部の結成式は三月三十一日午後一時から、浦和市農林会館ホールに各地仏教会代表三百名が集って盛大に行われた。

式は別所弘因氏の司会で進行し開会の辞を福岡寛順氏がのべ、ついで勤行に入った。終って座長選出があり、本部事務総長平林有高氏(豊山派総長)の挨拶について経過報告、規約、役員発表、宣誓文の発表があり、正力説新聞社主、金剛秀一埼玉教育理事長、栗原埼玉県知事、大沢雄一衆議院議員らの祝辞があったのち、倉持秀峰新会長の挨拶があり、終って記念講演として、文部省社会教育専門員の中島俊教氏から「青少年教化の諸形態」と題する話があり終って午後三時から祝賀パーティーに移り、埼玉教の発足を祝って乾杯した。

東京花まつり大会盛會
東京仏教団が主催

東京仏教団、交京仏教会主催による「東京花まつり大会」は四月八日正午開場によって、東京後楽園の交京公会堂において盛大に開催された。

会には東京花まつり会総務の栗本俊道氏の開会挨拶にはじまり、長岡慶信東京仏教団理事長導師により灌仏式典が莊厳にとり行われ、

記念講話があつて、交京区仏教会代表服部太元氏閉会の挨拶で第一部式典をとじた。ついで第二部の清興に移り、立体漫才、現代落語浪曲、歌謡曲などで楽しい一時をすごし、午後四時頃散会となった。

なお当日は全仏から狩野組織局長が出席し敬意を表した。

世界仏教協会の花まつり

世界仏教協会(会長野依秀市氏)主催による「花まつりの集い」は四月四日午後一時より東京大手町の産経会館小ホールにおいて開催され、友松円諦神田寺主僧、山本杉参議院議員、清水祐之築地本願寺輪番、作家の寺内大吉氏、それに野依秀市世界仏教協会会長の記念講演があり、終って余興として林家三平の落語に楽しい一時をすごした。

親鸞聖人大遠忌を記念 音楽と講演の集い

親鸞聖人七百回大遠忌を記念して本願寺派東京教区仏教青年連合会では、去る四月二十一日午後一時から、東京朝日新聞社講堂において「音楽と講演の集い」を催した。当日は築地仏教聖歌合唱団出演により仏教聖歌が合唱され、終って記念講演として、早大教授仁戸田六三郎氏が「親鸞と現代」、本部講師松本徹昭氏が「仏教と青年」について夫々記念講演をなした。

次いで民族舞踊として、日本、インドネシア、タイ、インド等の舞踊が踊られて四時頃閉会した。

なお終ってから懇親会が五時半からはじまり、盛況裡に七時半頃散会となった。

— 佛 教 界 ニ ュ ー ス —

◇日蓮宗ではさききに寺庭婦人研修会を開いて好評であったが、二月二十一日の両日に亘って、日蓮宗尼僧研修会を瑞龍寺で初めて開いた。同寺は古くから尼僧の根本道場として知られていた。参加者は五十名を越えたという。

◇北九州市の誕生を機に、旧市内にあった真言宗各派の寺院教会九十八か寺が一丸となって発足した北九州市真言宗各派連合は、布教活動の一本化をねらって二月十七日小倉区北方事務所

この三月中の日程でも次の様になっている。大阪・丸嘉機械KKの新入社員二十名の研修会二十五日間。大阪市内の商店経営者とその主婦及び従業員七十三名の研修会東邦紡績KKの社員百名の研修会四日間。岸和市内の労使代表百名の人間形成講座。大阪シマノ工業の社員七十名等で、いずれも人間形成に関する講話などが主となっている。

◇真宗高田派では昨年以來進めてきた短大を、同派の高田学苑に開

設する事に決定。学科は社会福祉科、保育科、家政科で各科四十名の定員。来春四月から開設予定である。

◇高野山真言宗定期宗会は、二月二十二日から二十六日にわたって総本山金剛峯寺で開かれ、座主選挙法等を改正することを可決したその主なものは次の通り。

①座主選挙法
これまでの座主・管長の推戴制を間接公選制に改め、任期も三年を五年に延長する。選出は「宗会議員」「宗務支所長」「高野山塔頭寺院正住職が互選したもの」が選出した五人の座主候補中から、全国寺院教会の正住職が選挙することになる。従来の座主推戴会の委員は、著僧が互選した者四人、著僧以外の宗会議員が互選した者四人及び執行長で組織されていた

②宗会議員の定数と選挙区の変更
現行の宗会議員定数の特選議員(金剛峯寺著僧選出議員)十名を六名、公選議員十六名を二十二名とする原案が、前者十名、後者二十五名と修正された。これによって選挙区の改正も行なわれた。

③賦課金の値上げ
現行の一指数二十七円の割当てを三円増額して、三十円に値上げした。

以上①②の件は、先の定期宗会での要望にこたえてすすめられてきた一制度調査会の一の答申によって議案が上程されたものである。

◇浄土真宗本願寺派では、三月七日から十日同派の全国組長会、前組長合同を催した。この組長は、当局任命の教務所長と末端寺院住職との中間に立って、当局からの矢つぎばの指示事項と末端寺院

からの不満との間にあって対処しているだけに、その質疑や問題提出のなかに既成寺院の直面している重要な問題を投げかけていた。例えば、僧侶の体質改善のため、得度及び教師、住職の法規を重視せよ、宗会制度の改革を行なうべく小坊住職も加わる様にせよ、教区組、寺院中心にやっつけてほしい。先端を最もよく知っている組長の会も一年一回開け、組長の年俸千円を上げて優遇せよ、伝道院の教化に外国語が多すぎる、教学予算が少くない、派遣講師に人材をまわせ農山村寺院は人口減少に伴って年々疲弊し、老人だけが守る寺院と化している。そこで寺院の統廃合を考へよ、等が見られる。

かねてから朝比奈宗源師等によって進められてきた「世界連邦日本仏教徒協議会」は本年八月二十四日から三十日の間、東京及び京都に於いて開催される第十一回世界連邦世界大会を機に仏教会にも強力なこの運動の組織をつくるため、三月八日学士会館で、その結成式と総会を開いた。

◇浄土宗では、合同前の布教師会の一本化をはかり、合同以來各布教師会の幹部と宗務当局とが協議を重ねている。一本化という点では意見が一致しているが、名称の点で更に意見をまとめる事にした

法式関係では、浄土宗法式会と知恩院の法式研究会との一本化はすでに出来ているので、この布教師会の本一化が実現すれば、合同の形が整う模様。

◇天台宗では、さきに宗内寺院のなかに未だ宗教法人の認証を受けていない寺院がかなりあり、処分問題もおこっていたが、このほど

宗務庁で調査したところ、全国で九十六か寺あることがわかった。そこでこれらの寺院が法人の手続きをとる様指導することにした。これら非法人寺院には、兼務住職や維持困難な寺院もあるので、この法人化への過程で整理されてくる寺院も出てくる様子である。

◇和宗総本山四天王寺では戦災にあった伽藍復興を、三十一年以來続けてきたが、近く完成し、今秋十月十五日から一週間、伽藍総落慶法要を行なうことになった。同時は直結した檀信徒をもたなかったのでその復興が危ぶまれていたが、三十二年に奉賛会が結成されて、以来募財機構も強化したといわれ、その復興完成までに六億円投

ぜられた。

◇京都国立博物館では三月十六日同博物館陳列室正面玄関の阿弥陀如来像前で、清水寺、東福寺、知恩院、高台寺、建仁寺、妙法寺、智積院、泉涌寺ら各寺院の出仕で仏像供養が行なわれた。この供養は戦時中から途絶えていたのを昨秋から復活したもので、博物館で展覧される仏像が、信仰の対象でなく美術鑑賞の対象とされているところから、年一度彼岸会近くに行なわれることになっている。

まつり行事の一環として、今後もつづけてゆく予定であるという。

真宗木辺派宗務長決まる
三月十日死亡した真宗木辺派宗務長仲義照師の後任として石原円成師が三月三十日付で就任した

法華経寺貫首に増田日遠師
中山妙空管長、大本山法華経寺貫首に、このほど前身延山法主の増田日遠師が推戴され、五月七日午後二時から大本山法華経寺(千葉県市川市中山町)において増田師の晋山式が盛大に行われることになった。

文部省宗務課長に
中城堅吉氏就任
文部省調査局宗務課長近藤春文氏はこのほど退任し、四月二日付で中城堅吉氏が新任した。なお新田両課長は四月六日午前十一時全仏へ挨拶に訪れ、各局長と懇談した。

小松浄祐師急逝
元日蓮宗宗務総長、東京墓地対策委員長など要職にあり乍ら從横の活躍をした小松浄祐師(東京谷中)日蓮宗瑞輪寺住職)はかねてから板橋日大病院へ入院加療中のところ、四月十三日午前四時十五分心臓衰弱のため遷化した。密葬は池上本門寺貫首伊藤日定大僧正の導師により四月十六日午後一時より自坊に於てしめやかに執行されたが、全仏から局長部長らが参列し師の冥福を祈った。行年五十六才

全日佛婦團東支部
栃木刑務所を慰問
全日本仏教婦人連盟関東支部(事務局長船口暉子氏)では、四月七日栃木刑務所を訪れ、食料品、着物、お茶の道具など約三十名の会員が持参し、四百名に上る囚人達を慰問激励した。なおこの催しは毎年仏婦が行って来たもので花